



2023年12月28日放送

日薬アワー FIP(国際薬剤師・薬学連合)国際会議 2023・ FAPA(アジア薬剤師会連合)学術大会 2023 報告

日本薬剤師会
常務理事 豊見 敦

この秋に開催された国際的な薬剤師の学会について二つご紹介したいと思います。

第81回 FIP（国際薬剤師・薬学連合）の世界大会

まず一つ目は、第81回 FIP（国際薬剤師・薬学連合）の世界大会です。

FIP は薬学に関する世界的な組織です。156 の組織、学術機関会員、個人会員を通じて、世界中の 400 万人以上の薬剤師、薬学科学者、薬学教育者を代表しています。日本の団体では日本薬剤師会のほか日本病院薬剤師会、日本薬学会が加盟しています。本部はオランダにあり、WHO（世界保健機関）と共同で多くのプロジェクトがすすめられています。

年に一度開かれる世界大会が令和5年9月24日から28日にかけてオーストラリアのブリスベンで開催され、90か国から2000名近くが参加しました。

「医療の持続可能な未来を築く薬剤師・薬学—2030年の目標に向けて」"Pharmacy building a sustainable future for healthcare – Aligning goals to 2030")をメインテーマに開催されました。このテーマは、新型コロナウイルスのパンデミックによって変化した世界のヘルスケアの状況に対応し、薬剤師や薬学の役割と貢献を再定義しようというものです。

開会式で行われたポールシンクレア FIP 会長の講演では、昨今の異常気象の発生率の増加等、環境状態の悪化が医療を必要とする人々の増加と新たな健康問題の出現につながっていることにふれ、薬学分野が環境保護と持続可能なサービス提供に向けて果たすべき責任について述べられました。薬学が気候変動への積極的な対応を優先事項にするべきであると提言されています。

本大会のセッションは大きく4つのトピックで構成されています。

トピック A は「世界的な健康課題に対するグローバルな解決法」です。地球規模の問題には、国際的な協力と協力を伴う地球規模の解決策が必要という前提のもと、パンデミックへの備えの資金調達からセルフケアとユニバーサル・ヘルス・カバレッジの優先順位設定など様々な議論が行われました。

トピック B は「より良いヘルスアウトカムのための連携」で、薬剤師が他の医療従事者等とうまく連携し、患者の安全性、プライマリヘルスケア、予防接種、抗菌薬の管理、個人中心のケアなどに影響を与えながら、どのように患者のヘルスアウトカムを向上させることができるかが議論されました。

トピック C は「現代世界におけるイノベーション・薬局の機会の創出」と題して、テクノロジーの急速な変化が薬局に与える影響について様々な情報提供と議論が行われました。

トピック D は「特別に得られるものを目指して」というカテゴリーで様々な分野における課題が話し合われました。

このような4つのトピックの元組み立てられたセッションは5日間で70を超え、約200名の演者とパネリストが登壇し、会期中は連日朝から夕刻まで講演やシンポジウムやワークショップが開催されました。

それぞれの地域フォーラムが主催するセッションも開催されます。我々日本が所属するWHOの西太平洋リージョンに該当する西太平洋フォーラム(WPPF)のミーティングも開催されました。

2部構成で実施されたWPPFのミーティング、前半は薬剤師の業務におけるストレスについての課題が取り上げられ、西太平洋地域各国での薬剤師を支援するサービスについての議論が行われました。後半はGood Pharmacy Practice(GPP)の現状と課題について議論を行いました。マレーシア、パプアニューギニア、フィリピン各国の代表者とともに登壇し、日本の現状についてご説明させていただきました。WPPFでは2016年にGPPに関するワークショップを開催しており、その後の状況について議論を深めた形です。

各国の薬剤師業務を感じられるポスター発表もFIPの魅力の一つです。3日間にわたって様々なカテゴリーで800を超えるポスター発表が行われました。日本の状況や取り組みについても複数の発表が行われていましたが、和歌山県立医科大学薬学部の鈴木渉太先生による、都市部の地域薬局での非日本人患者に対する対応方法について調査された発表はコミュニティファーマシーセクションのポスターアワードを受賞されました。

また会期中に迎えた9月25日は世界薬剤師デーです。世界薬剤師デーのテーマである薬

剤師による医療システムの強化に焦点を当て、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、予防医療、患者ケアに対する薬剤師の貢献についてのセッションも開催されました。このセッションでは将来のパンデミックにどのように備えるかについて議論が行われました。

このような一般参加のセッションの他にも、会期中には加盟国代表による会議等も開催され、様々な報告や議決が行われます。今回も会期中複数回にわたって開催され、日本薬剤師会からは山本会長が出席しました。FIP における会員組織のありかたや、組織体系について重要な議論が行われました。

最終日には、日本の FIP 加盟団体が共催でジャパニーズレセプションを開催しました。毎年恒例となっているこのレセプションには FIP 会長をはじめとした FIP 関係者、そして各国の薬剤師会の会長や役員など多数の来賓を迎え、活発な交流が行われました。

次回の FIP は、令和 6 年 9 月 1 日～5 日。南アフリカのケープタウンでの開催が予定されています。

FIP ではこのような年会の他にも様々なテーマでウェビナーを開催しており、どなたでもウェブサイトから申し込むことで視聴することができますので興味がある方は確認してみてください。

FAPA 第 29 回アジア薬剤師会連合学術大会

次にご紹介するのは FAPA 第 29 回アジア薬剤師会連合学術大会です。

令和 5 年 10 月 24 日～28 日にかけて台湾の台北で、開催されました。[医療制度の回復力、安全性、公平性：薬剤師が支援できる] (Health systems resilience, security and equity: Pharmacists can help) をメインテーマに開催されたこの大会には、25 か国と地域から約 3000 名の薬剤師が参加し、日本からも多くの薬剤師が参加しました。

FAPA 学術大会は原則として隔年で開催されますが、昨年年第 28 回クアラルンプール大会がもともと令和 2 年に開催予定であったものが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期され令和 4 年に開催されたということもあり、昨年・今年・来年と連続開催されることとなっています。

開会式の前日に構成団体の各国役員で開催されたワークショップでは、日本薬剤師会も協力しましたが、各国の状況を調査した結果を基に議論が行われました。今後アジア各国の薬剤師を取り巻く状況についてこのワークショップで検討されたデータも公表される予定となっています。

第 29 回大会の開会式では、黄台湾薬剤師会連合（FTPA）会長の挨拶の後、蔡英文台湾総統を来賓として迎え、祝辞が述べられました。蔡総統は、「新型コロナウイルスのパンデミック中でもコロナ禍後でも社会が薬剤師のサポートと支援を必要としており、薬剤師のサポートと支援があつてこそ、公衆衛生システムの強靱性と信頼性を高めることができる。と、薬剤師に対する感謝を述べられました。

開会式に続く基調講演では国立医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長の中村祐輔先生による AI を活用した精密医療についての講演が行われました。

通常行われている、FAPA 石館賞については隔年で表彰が執り行われることから今大会において授与式は開催されておきませんが、次回韓国大会での表彰が予定されています。

日本薬剤師会では今大会より、FAPA 学術大会への日本からの参加を促進すること、今後の都道府県薬剤師会を担う若手薬剤師の育成に資することを目的に「FAPA 学術大会国際交流プログラム」を実施しています。FAPA 学術大会国際交流プログラムは、日薬学術大会におけるポスター優秀賞の演題を検討し、国際交流プログラムに適した演題の受賞者・施設に対して、FAPA 学術大会での発表を行っていただくというものです。

今大会の国際交流プログラム では、香川県の越野優希先生が参加し、「保険薬局薬剤師によるトレーニングレポートを活用した薬学的介入と残薬解消への介入から得られる医療経済効果」のポスター発表が行われました。

この発表は 2022 年に宮城で開催された第 55 回の日本薬剤師会学術大会において、ポスター優秀賞の最優秀賞を受賞された発表を基にしたものです。

10 月 28 日会期最終日に開催された特別講演セッション "Nobody Left Behind: Pharmacists Addressing Inequities in Health"では、私から日本のプライマリヘルスケアに関して講演を行わせていただきました。

次回の FAPA 学術大会については、令和 6 年 10 月 29 日～11 月 1 日に韓国のソウルで開催が予定されています。

ぜひ、みなさんも参加してみたいはかがでしょうか。